



★この区間道幅狭く、大型バスの相互通行不能なので、定期バスの時刻表に注意して下さい。

# 三浦七福神めぐり ごあんない



## 金光恵比須 ①

遠い昔の一夜、金田湾の海上に光るものがあるのを通りがかりの漁夫が怪しんで拾い上げたところ、黄金の恵比須像であったので、これは大漁満足のしるしと喜び、草庵を建ててお祀りし、村人ごぞつてお守りしていたところ、一人の旅僧が現われて曰く「この地の相を観ずるにまことに  
壽の海、福の田なり。海の幸を護るにこの恵比須尊あり、よろしく五穀豊饒を司る地藏尊を勧請すべし。しからばこの里の栄ゆること量りなかるべし」と地藏尊を恵比須尊と合わせて祀るよう村人に告げて去りました。そこで天文17年(1548)村人は鎌倉光明寺の伝説大和尚を招いて開山となし、草庵を現在の地に移して金田山円福寺としたのであります。

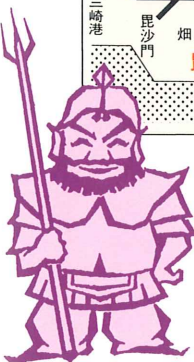
## 笠龍弁財天 ③

具が流れ来り、これを用いて魚をとり、飢えをしのいだという事から、建久元年(1190)鎌倉幕府が成立するや、領地であるこの地に「笠」を祀り、弁財天堂としたのがこの笠龍弁財天の縁起であります。この弁財天は八臂弁財天といわれ、大漁満足、財宝如意、容色端正、弁智増上、芸能上達等の希望を叶えて下さる女神であります。



## 白浜毘沙門天 ②

ここは持陽山慈雲寺持、毘沙門堂と称し、本寺は応安元年(1368)妙謙大和尚によって開かれたもので、毘沙門天は行基菩薩の御作と伝えられ、古来より正月三日酉の刻(午後6時)には必ずありがたい神示があると信じられ、近郷近在から多  
数の参詣があり智恵と勇武の守り神として、あがめられております。特に北方を守る武神で、厄除け、恵方の毘沙門天であります。



## 桃林布袋尊 ④

この寺も頼朝公の別荘、三御所の一つで境内に桃の木が多かったので「桃の御所」と言われております。慶長18年(1613)向井兵庫頭政綱が開基となり白室大和尚を迎えて開山とした禅寺であります。この布袋尊は当寺に安置する準国宝級の薬  
師如来、日光月光の両菩薩、12神將、聖観世音と共に古くから近在の人々に尊ばれ、不老長寿、無病息災の守護神とされております。



## 長安寿老人 ⑤

この社は小網代湾が昔から避難港として全国に知られていた関係上、航海安全大漁満足の神として古くから崇拜されてきました。昔1人の漁夫が網にかかった御神体を海中から引き揚げ、お祀りしたもので現在の社殿は三浦道寸公が改築したものと伝えられております。御神体は中筒男命、別命白髭明神、南極星の化身といわれ長寿を授ける神とされております。本殿の前にある石は鳴石、一名カンカン石とも呼ばれ、これは昔の石鏝で海上安全のために昔の船頭が社におさ  
上人が一刀三礼の儀を以って刻まれたもので甲子の日が御縁日となっております。富貴・長寿・特に豊かな食生活が約束されるというめでたいものであります。また、鬼子母神の寺として有名であります。



## 寿福大黒天 ⑦

この寺の開基は日蓮宗九老僧の1人、日範上人で、延慶3年(1310)の建立といわれています。日範上人は123歳の長寿を保たれた方で、現在は惜しくも枯れてしまいましたが上人手植の松が境内に残っております。この大黒天は30世の日蓮  
杖を携え、鶴を伴っているところから鶴園福祿寿ともいわれ南極星の化身とも、中国宋の道士天南星の化身ともいわれ、福徳、財宝、長寿の三徳を備えたと伝えられています。寺域は、四季折々の花に彩られ特に山ゆりは鶴の乱舞を現出する毎年六月下旬には弘法大師生誕祭(山ゆり祭り)を催しています。



## 鶴園福祿寿 ⑥

この寺は高野山真言宗、別名花山曼荼羅ともい、室町時代後期には、小田原北条氏の雨乞い祈願所として信望が篤く、その後、天正年間(1580年頃)に賢栄法印により中興されたと伝えられています。この福祿寿は、花山曼荼羅の一尊として勧請され、経巻を結ん  
だ杖を携え、鶴を伴っているところから鶴園福祿寿ともいわれ南極星の化身とも、中国宋の道士天南星の化身ともいわれ、福徳、財宝、長寿の三徳を備えたと伝えられています。寺域は、四季折々の花に彩られ特に山ゆりは鶴の乱舞を現出する毎年六月下旬には弘法大師生誕祭(山ゆり祭り)を催しています。

